

外材輸入量の減少等に伴う影響について（まとめ）

No1

中部森林管理局

| 森林組合等林業事業者（川上）の状況 | |
|-------------------|---|
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> • 昨年の単価の下落に伴い、地域によっては今年度の事業を保育作業等の森林整備を中心に計画する事業者等が多い。 流通業者や市場関係者から増産の要望は多いが、急激な対応は困難との意見が多い。今後、梅雨期となること等、原木の品質管理の観点から、出材を回避する動きも見られ、安定的な国産材の供給には、もう少し時間がかかるとの意見が多い。 また、林業従事者の労働力不足や経営基盤の強化対策、補助金等の拡充を訴える声もある一方、今回の価格高騰を事業拡大のチャンスにと期待している意見もある。 |

No2

| 木材市場等流通業者（川中）の状況 | |
|------------------|--|
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> • 木材市場の流通量は、地域によって格差はあるものの不足しており、スギ、ヒノキを中心に価格は高騰している。 新たな需要者からの購入要望も増加しているが、既存の買い方への供給も苦労している市場が多い模様。 今後の国産材需要と供給のバランスが崩れる事で原木価格が下がることが不安。 国産材の安定供給を推進し、国産材率の高まりを期待。 また、国産材の需要高、価格上昇は健全な林業経営につながり、継続を期待している。しかし伐採事業者の生産量には限度があり、急激な増量が見込まれない。事業が行いやすい現場確保、事業計画が必要。 |

No3

| 木材加工等需要者（川下）の状況 | |
|-----------------|---|
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> • 輸入材の不足等により国産材への要望が増加している。 特に、羽柄材、間柱などの割物の引き合いが強く、注文量に対して原木の不足と生産能力を超えているオーダーとなっている模様。新たな取引先からの要望も多く、お断りしている量も多い状況。 外材輸入量の減少が国産材需給を掻き回されているので、外材輸入量が回復した時の反動を懸念する声もある一方で、今までが安すぎた。山元に還元できる価格とならなければとの声出ている。 外材から転換し、国産材を使う、このために価格修正がなされていくことは良いことではないかとの意見もあり、原木価格が値上がりしていく中で、仕入れ金額が上昇しており、製材品価格が上がらないと粗利が落ちるため、市場に価格値上げ交渉をしていくことが大切である。 |

(参考)

外材輸入量の減少等に伴う影響について（各地域の状況）

No1

中部森林管理局

| 地域 | 森林組合等林業事業者（川上）の状況 |
|-----|---|
| 富山県 | <ul style="list-style-type: none">・ 出材が進まない原因は、伐採計画策定の遅れと担い手不足が原因。・ 木材価格の高騰ばかりが目に入るが実際には、運材等の費用も上昇している。 |
| 岐阜県 | <ul style="list-style-type: none">・ 梅雨期に向け生産量は減少するものの、お盆明けには出材も順調になる予定。・ 増産に応えたいが人手不足により簡単に増やせない。・ 補助金の減少により、事業量が減少している。 |
| 愛知県 | <ul style="list-style-type: none">・ 生産量の増加には、事業量の平準化、一年を通じた発注計画を求む声。・ 林業従事者不足が課題。・ 品質確保のため梅雨時期などの出材を避ける傾向にあり、これからの時期は入荷量（生産量）が減る。 |
| 長野県 | <ul style="list-style-type: none">・ 昨年の価格の下落に伴い、今年度の事業を保育作業主体の事業計画となるよう町村へお願いしているため伐採作業への急激なシフトは出来ない状況。・ 「緑の雇用」で入社しても資格を取得し機械を使えるようになるとすぐに辞めてしまう。給料を上げたいが、生産単価の上昇がなく困難。機械操作と伐倒作業の両立が出来ないと仕事ならず、事務系職員も併せて担い手不足が課題。・ 現状、国有林における素材生産事業を主軸に据えているが、複数年契約による事業を増やしてもらえると、計画的かつ安定的に事業遂行でき、経営基盤強化にも直結するので、検討をお願いしたい。 <p>また、立木公売物件への参加についても昨年度より試行を進めているが、木材価格の高騰が会社の販路にも好影響をもたらしてくれればと期待している。</p> |

No2

| 地域 | 木材市場等流通業者（川中）の状況 |
|-----|--|
| 富山県 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場の流通状況については、取扱量は少ないが原木不足の状況では変わらない。 ・C材の比率が高い。他県と比較すると比率は倍となっており、課題となっている。 |
| 岐阜県 | <ul style="list-style-type: none"> ・価格は上昇しており、何でも売れる。（欠点材でも売れる） ・新たな需要者からのオファーも増加しているが、既存の買い方への供給にも苦勞しており優先順位を付けて振り分けしている。 ・今後、国有林の伐採へ移行すると民有林材は減少する。 ・生産量が増加しても、乾燥機の不足がボトルネックになっている。 ・これまでスギ専門で購入していた方がヒノキも買うようになった。 |
| 愛知県 | <ul style="list-style-type: none"> ・原木不足の状況に、生産量増をお願いしている状況であるが、この時期は品質確保のため素材生産を避け、森林整備等の予定を組んでおり急激な生産量の増加にはシフトできない。 ・製材品について、外材を取り扱っていた業者から、新たに買い方としての登録への問合せが数件来ている。 ・原木の引き合いが強すぎて、市場を介さず直接製材工場やブローカーが素材生産者へ営業していくことを懸念している。 ・今後、国有林の生産事業が最盛期を迎えると、民有林材は減少する。 ・当市場はセリ売りのため、新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期すよう努力している。 |
| 長野県 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度については原料材が調達できず、年間を通じて安定的な生産が出来ない状況。 ・需要が多く供給が間に合っていない状況。今後の木材価格がどの様に変化していくのか予測がつかず、素材生産現場への指示が難しい。 ・ウッドショックと呼ばれているが、ヒノキ、スギに特化された状況。モミやカラマツに高騰の実感はない。 ・輸入材建築用材の不足が今回の国産材需要高、価格高騰につながっている。住宅着工件数が増えていない中で、今後の国産材需要と供給のバランスが崩れる事で原木価格が下がることが不安。国産材の安定供給を推進し、国産材率の高まりを期待。 ・国産材の需要高、価格上昇は健全な林業経営につながり継続を期待している。しかし伐採事業体の生産量には限度があり、急激な増量が見込まれない。事業が行いやすい現場確保、事業計画が必要。 |

No3

| 地域 | 木材加工等需要者（川下）の状況 |
|-----|--|
| 富山県 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の製材工場では土日フル稼働だが、乾燥が追いついていない状況。 ・ 木材価格の高騰により、富山県内の中小規模の製材工場では材が不足しているため、県有林から伐採して欲しいという話もあるが、森林計画上の観点から安易に伐採はできない状況。 |
| 岐阜県 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 原木価格の上昇は、川上への利益還元は大きくなると思われるが、川中、川下、施主はメリットが見当たらない。 ・ 外材の代替として、スギ、ヒノキ正角、スギ平角、羽柄材等の引合が強く、注文量に対し生産キャパが超えている。 ・ 現状として管内及び継続取引業者の対応だけで、受注残や納期延期等が発生している状況なので、一見業者や販売実績の薄い業者に対してはお断りしている。 ・ 製品価格の上昇も見られるが、原木価格も相応に上昇すれば利益は何も変わらない。外材輸入量の減少が国産材需給を掻き回されているので、外材輸入量が回復した時の反動を懸念している。 |
| 愛知県 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月までは順調に入荷していたが、5月に入り入荷量が不足し始めている。 ・ 新たな取引のオファーは来ているが、受ける余裕はないため、断っている。（従来からの取引相手を優先） |
| 長野県 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料不足のため新規のオファーあるが、既存のお客さんに対する販売を基本としていることから、急激に変化させるのは無理であるし、できない。 ・ 価格は多少上がったが、木曾谷は安定していると考える。今までが安すぎた。山元に還元できる価格とならなければならない。外材から国産材へ転換し国産材を使う、このために価格修正がなされていくことは良いことではないかと考える。 ・ 原木価格が値上がりしていく中で、仕入れ金額が上昇しており、製材品価格が上がらなると粗利が落ちるため、市場に価格値上げの交渉を行っている。 |